

# 巡ってみよう！ 富士市にある戦争遺跡

## No.1 富士にあった戦闘機の飛行場(五貫島・森島・宮下)



当時の練習機

戦争末期の1944年9月、陸軍明野飛行学校の富士分教所として富士飛行場が作られました。そこに住んでいた人たちの家や田畑を全部つぶして戦闘機パイロットの練習場が半年で作られました。6月に沖繩戦へ特別攻撃隊として出撃し戦死した若者もいました。

## No.2 連れてこられ、亡くなった中国人の方を弔う(中丸)



中国人殉難者慰霊碑

日本政府は戦争中に中国人を中国から無理やり連れてきて、日本の鉱山や工場で働かせました。富士飛行場を作るのにも504人が手伝わされ、52人が栄養失調と病気で亡くなりました。戦後の1948年、中丸の共同墓地内に慰霊碑が建てられ、1954年11月には遺骨が中国に返されました。毎年7月には、地元・中丸区と富士市日中友好協会合同の慰霊祭が行われています。

## No.3 飛行場を田んぼに戻す大工事(森下)



開拓記念碑

戦後の食糧不足を補うため、富士飛行場を田畑に戻す工事が行われ、元の土地を提供した人たちに返されました。この開拓事業の10周年を記念して碑ができました。1981年に移転し、現在は富士南まちづくりセンター敷地内にあります。

## No.4 飛行機の燃料を保管した地下壕(岩本)



燃料庫の地下壕

富士飛行場の建設に合わせて、航空燃料のための油を保管する倉庫として岩本山の西のふもとに掘られた地下壕です。(現在は未整備で、中に入ることはできません。)

## No.5 本土決戦を迎え撃つ陣地(室野)



愛宕山平和記念の碑

本土決戦に備え、1945年4月～7月に陸軍地上部隊約千名が愛宕山山中に高射砲陣地として地下壕を建設しました。駿河湾から富士川沿いに北上するアメリカ軍を高射砲で撃って阻止する計画でしたが、終戦直前に建設作業は中止されました。地下壕は残っていますが、現在は危険なため入れません。平和祈念の碑は1955年に建てられました。

## No.6 軍需工場に動員された女学生たち(水戸島元町)



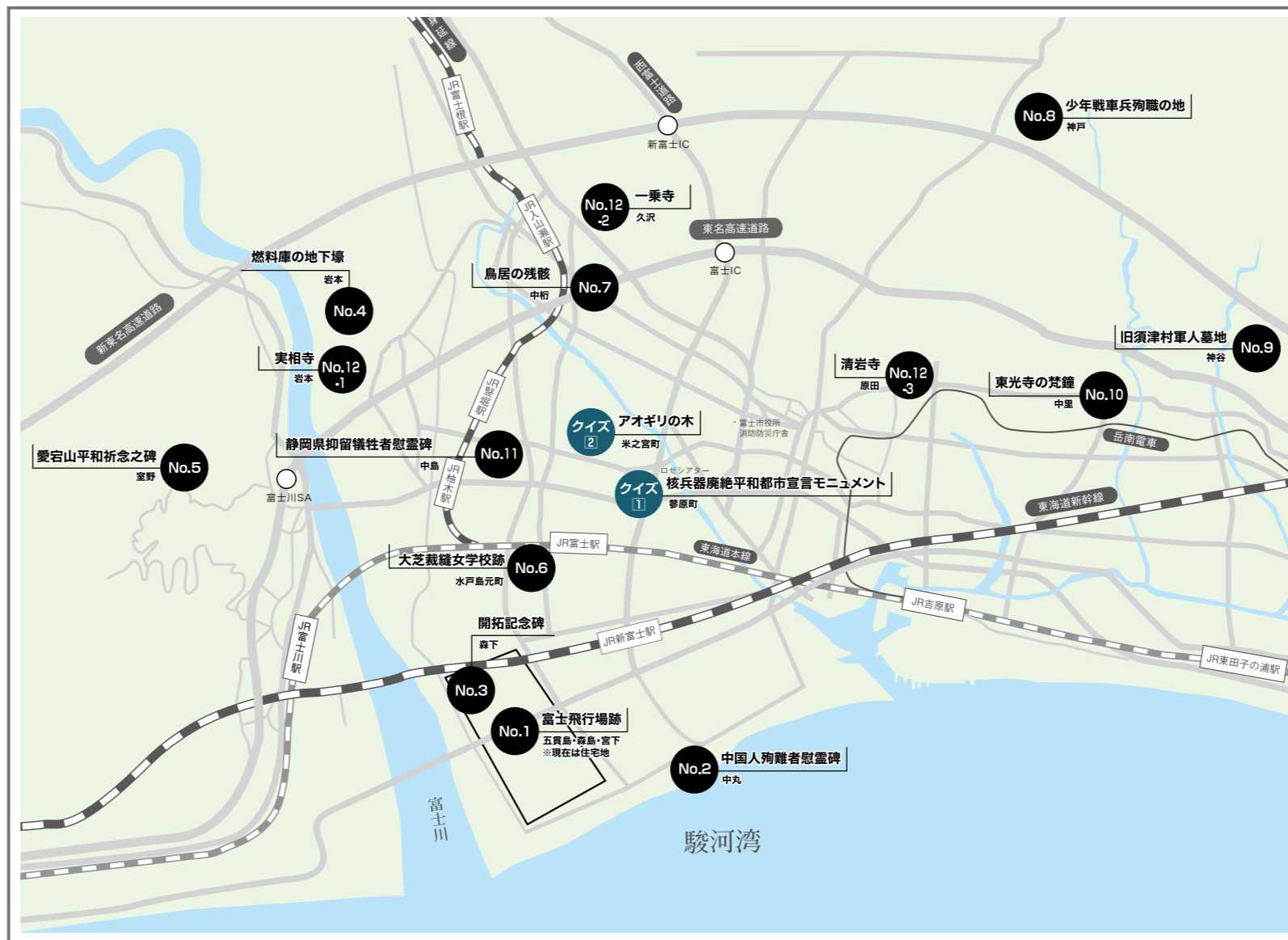
大芝裁縫女学校跡



当時の様子

1944年、戦争が長引き労働力が不足したため、国は「お国のため」とおおしぼさいほうじょがっこうとおおしぼさいほうじょがっこうを廃校にして、女学生を工場に動員しました。校舎は解体され、資材は清水の軍需工場の宿舍として使われました。現在、学校の敷地跡には卒業生たちが作った記念碑がひっそりと建てられています。

アジア・太平洋戦争中、大空襲を受けた東京や原爆を落とされた広島・長崎ではたくさんの犠牲者が出ましたが、富士市もけっして戦争に無関係だったわけではありません。戦争中に使われた施設、戦火から逃げてきた人々が生活した場所、平和を祈って戦後に建てられた記念碑など、戦争の歴史を伝える遺跡を自分の足で巡り、考えてみましょう。



## No.7 空襲の恐ろしさを伝える鳥居の残骸(中桁)



破壊された鳥居

B29爆撃機による本土空襲が繰り返されていた1945年4月9日、米軍機が投下した爆弾が旧吉原町の中桁神明宮の鳥居近くに落ちました。ものすごい爆風のため近くの民家は一瞬にしてつぶれ、一家5人が死亡しました。破壊された鳥居の一部が現在も残っています。7月には、兵器を作る工場(日産・東芝・大昭和など)や富士飛行場も爆撃を受け、死傷者や建物の被害が出ました。

## No.8 少年兵が戦車ごと川に転落(神戸)



少年戦車兵殉職の地

1943年3月11日の夜、当時富士市市上井出にあった陸軍少年戦車兵学校の生徒で、広島県出身の大地好道さん(当時18歳)が、夜間訓練中に戦車ごと神戸橋近くの12m下の滝川に転落し、殉職しました。現在、神戸小学校の北側、神戸橋の近くに慰霊の碑が建てられています。

## クイズ①のこたえ

核兵器廃絶平和都市宣言モニュメントは、ロゼシアターの南西、富士見大通りの中央分離帯に建っています。

## クイズ②のこたえ

アオギリの木は、米の宮公園のぐるん・ばよねのみやの前に植えられています。

## No.9 224の同じ形の石碑が並ぶ墓地(神谷)



旧須津村軍人墓地

旧須津村軍人墓地には、同じ石碑が224柱建立され、戦死した人々を弔っています。毎年秋のお彼岸の中日には、高齢化した遺族会に代わって地元連合町内会がここで慰霊祭を行い、平和な世への祈りを捧げています。

## No.10 お寺の鐘も飛行機材料になる(中里)



東光寺の梵鐘

(釣り鐘)

戦争が続く人々の生活が苦しくなるにつれ、飛行機や艦船の原材料の金属も不足し、家庭にあるなべやかんまで回収されました。学校にあった銅像や鉄の門、神社や寺の鉄・銅製品も対象となり、1943年に須津村の龍泉山東光寺の梵鐘(738kg)も供出されました。現在の梵鐘は1973年に再建されたものです。

## No.11 極寒の地シベリアで亡くなった人たちを忘れないために(中島)



静岡県抑留犠牲者慰霊碑

戦後、多くの日本人がソ連軍によってシベリアやモンゴルに連行され、重労働を強制されました。厳しい寒さと飢えの中、静岡県出身者も2千人近くがふるさとに帰りたいと願いながら死んでいったとされています。戦争中のアジア・太平洋地域の多くの人々の犠牲の記憶とともにシベリア抑留の歴史を伝えるために、2003年11月に静岡県抑留犠牲者慰霊碑が建てられました。

## No.12 小学生が戦争中に親と離れて集団生活(市内各所)

国は子どもたちが空襲の犠牲にならないように都会から地方に避難させる「学童集団疎開」を行いました。富士市には東京都品川区や渋谷区から生徒たちが来て、岩本の実相寺や久沢の一乗寺、原田の清岩寺など市内の多くの寺院に宿泊し、集団生活をしました。

## じっそうじ 実相寺での疎開生活のようす



実相寺に疎開した子どもたち

生徒たちは毎朝5時に起きて体操をした後、「兵隊さんありがとう」と言って朝ご飯を食べました。午前中は勉強をして、午後はマキ拾いや草取りなどの仕事をしました。夕食の前後は遊び時間で、夜は8時半ごろ寝ました。でも、寂しさですすり泣く声がしばしば聞こえていました。